

（別紙4） 令和 元 年度

（様式1）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100198	
法人名	社会福祉法人ひかりの里	
事業所名	グループホームめだかの学校湯村	
所在地	甲府市湯村 3-11-10	
自己評価作成日	令和元年12月25日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	1/16/2020

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人ひかりの里は多様なサービスがあり、各事業所が連携をして利用者様とご家族が安心して笑顔で過ごせるよう支援をしている。建物の特長をいかし、催し物等1階フロアで他事業所合同で行い、他事業所との交流を連携強化につながるよう図っている。湯村温泉祭り、厄地蔵とう施設前が会場になっているため地域交流をしています。月に一度はレクリエーション活動として、外出をしたり、みんなでおやつ作りを行っています。法人の三大行事(納涼会・運動会・合唱祭)にも積極的に参加をしています。

甲府市の北西に位置し、歴史ある温泉街にある鉄筋コンクリート造りの6階建ての3階を事業所としている。2階には特別養護老人ホーム、3階の同じ階には短期入所生活介護施設が併設している。1階のフロアを利用して合同での催しを開催したりと協力関係を築いている。事業主体の法人は、福祉、医療、児童養護施設の運営をしている。法人の合同運動会や合唱祭等があり、各事業所が参加している。また、隣接している幼稚園の園児の交流会や地区の文化祭に見学に行くなど地域との関わりも大切にしている。理念の「安心と笑顔、一日一日を大切に」過ごせるように、管理者と職員は日頃から笑顔が絶えないような支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと ○ 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが ○ 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが ○ 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名：**グループホームめだかの学校湯村**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づき運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心と笑顔、一日一日を大切に」と言う理念があり朝礼時には皆で唱和している。	事業所独自の理念「安心と笑顔、一日一日を大切に」を朝礼時に唱和している。また、朝礼後に理念の意義を確認し、笑顔に繋がる目標を立て、一日のケアに反映させる取り組みを行っている。職員は常に心穏やかに利用者に接することを心がけ支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時などに地域の方たちと行き会ったときには挨拶を交わしている。地域のお祭りには積極的に参加をしている。	地域のお祭り開催時には法人の駐車場を開放し屋台やお神輿が出ている。事業所も担当があり利用者もお祭りに参加して地域の人達とふれあう機会となっている。老人会の人達と玄關に季節の花を植えたり、隣接している幼稚園の園児が訪問、中学生が夏休みと冬休みにボランティア研修として利用者と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で民生委員等に情報をていきようしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際の事例を挙げ、取り組みの状況報告し各委員より適切なアドバイスをもらいサービスの向上に努めている。	2か月に1回開催している。会議には民生委員、有識者、利用者・家族代表、地域包括支援センター職員がメンバーになっている。事業所からの報告と共に参加者から質問、意見、要望を聞いている。参加者からは意見やアドバイスをもらっている。また、併設している特養と合同で行う時もあり、意見交換している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を直接届け情報提供をしながら関係を築いている。	運営推進会議の議事録を市の担当者に届け、事業所の実情や取り組みを伝えている。生活支援を受けている利用者に対しての必要な書類を届けたり相談している。地域包括支援センターの勉強会に職員が参加したり、資料を届けてくれるなど連携を図っている。また、月に1回介護相談員の受け入れをしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修・内部研修などの勉強会で学んでいる。	法人の内部研修や施設長が交代で行う職員研修があり、身体拘束についての勉強会では内容と弊害を認識し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、利用者の行動を制限するような言葉遣いにも気を付け、気づいた時にはその場で注意し合うようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の事業所会議での議題として取り上げておりその報告を口頭と文章でおこなっている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している	管理者が研修会に参加して内容を職員に伝えている。添付資料などは、回覧し確認印を押している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前段階でも面接時に大まかな内容の説明を行い、不安なく契約できるように対応している。最低2回は内容の説明を行っている。			

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名：**グループホームめだかの学校湯村**

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次ステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時を利用して常に家族と話し合い、意向の確認をしなが ら対応している。	家族等の面会時に利用者の日頃の様子を伝えて、話を聞く ようにしている。家族アンケートからも訪問しやすい、職員と 話しやすいとあり、何でも言ってもらえる関係が作られている 。通院時の送迎や同行等の要望があり、出された意見は管 理者と職員で話し合い反映するようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で意見交換をしたり、その場その場での意見交換を 行い利用者様のより良いサービスに努めている。	職員会議で職員から意見や要望を聞いている。職員から希 望休を聞いて配慮した勤務体制にしている。日頃からも意見 、要望を聞くように心がけている。備品やレクリエーション用 具等の購入を希望する意見があり反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務 状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど 、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件 の整備に努めている	各自に休みの都合を聴きながら勤務表を作り、働き改革の 一環として有給休暇の取得を積極的に行っている。職員の実 績を見ながら適切な評価をしやりがいのある職場環境の改 善を図っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際 と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進め ている	職員研修、内部研修にできるだけ多くの職員が参加出来る 様に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会 を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等 の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取 組みをしている	研修にいかにせる事、他事業所間で交流をもち情報交換、支 援方法について話し合う時間を設けている。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安 心を確認するための関係づくりに努めている	入居後関わりを多くもち利用者様の意向確認や、今後の支 援につながる関係を築けるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づく りに努めている	生活の様子等をこまめに報告をしたり、来訪時には話す時間 を持ちご家族様の要望にお応えできる状況に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その 時」まず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	状況確認をする中でご家族の意見を聴きながら、他のサービ スの必要性の有無について検討をし対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人に出来ることをしていただき、出来ないところを支援し お互い様の意識を持つ関係作りをしている。			

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名：

グループホームめだかの学校湯村

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	催し物等参加のお誘い及び、電話連絡などを通じ共に支え合う関係を築くことに努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友達やご近所さんが何時でも来所出来るような雰囲気づくりをしている。利用者様との話の中で想い出話を聞きながらそのことについてじっくり話をしたりその場所に出かけたりする。	以前住んでいた場所を見に行ったり、職員と一緒にお墓参りに行っている。家族と一緒に行きつけの美容院に行ったり、同級生が訪ねて来る等の継続的な支援を行い、家族から聞いたり、確認を取りながら人と場所とのつながりが途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの席の配慮をし互いになじめる配置をおこなう。耳の遠い方には少しでも聞き取りやすい方に利用者様を配置している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族や関係があった方からの要望あった時には適切に対応している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段からの会話の中で希望等把握に努めている。外が見たい思いがある人にはベットの位置を変えるなどに努めている。	入居時に生活歴等を聞いて把握している。また、日頃の会話や行動からも把握するように心がけている。会いたい人がいる時は家族に連絡したり確認して対応している。食べたい物の希望には、食べに行ったり作ったりしている。把握が困難な場合は、表情、行動を見て対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	若い頃の仕事歴や生活歴を伺い本人の趣味や興味をを把握しサービス向上努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、その日の状態を見極めながら職員間で情報交換をしその日の過ごし方を考えている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話し合い情報の共有をし現状に合った計画作成をしている。	入居時に利用者及び家族の生活に対する意向を聞いて、暫定の介護計画を作成している。1か月をめぐりに職員からの情報を基に家族も含め話し合い現状に即した介護計画を作成し、見直しは6か月としている。家族の要望や利用者の状態に変化が生じた場合には、モニタリングに基づいて介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤時に個人記録日誌、申し送りノート、業務日誌を確認し必要時には計画の見直しをしている。			

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名：**グループホームめだかの学校湯村**

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が付き添う受診等都合がなくなつた場合は職員が対応している。併設する施設合同で催し物を行う。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔の事や住んでいた地域の回想をしたり、塗り絵計算問題など楽しむことができる支援に努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご家族様とかかりつけ医について話し合い、希望に沿った形をとっている。協力医のクリニック受診には職員が同行しその他の受診にはご家族様の対応をおねがひしている。バイタルチェック表、水分摂取量などのデータをお渡ししている。	入居前からのかかりつけ医や協力医を本人、家族が希望して受診している。かかりつけ医は家族が付き添い、受診時には日常の様子等情報を渡している。受信結果は家族から報告があり情報を共有している。協力医の受信には職員が同行して変更等がある場合は家族に伝えている。専門医受信は家族の対応としている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護師出勤時に状態の話し合いを持ち、相談や支援方法を確認している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはケアマネージャーか管理者が付き添い情報提供をしている。退院時にも動向を病院からの指示を職員に伝達している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設は看取りを行っていないので関係施設と連絡を取り直ぐにご家族様にも連絡をすることを入所案内時に説明をおこなっている。	入居時に事業所での看取りは行っていない旨の説明をしている。重度化した場合の対応としては、看護師、施設長、ケアマネージャーと話し合い、家族に連絡して方針を決めるようにしている。状態に変化が生じて長期入院するような場合でも、家族の意向を尊重して居室を確保している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年必ず1回内部研修会で赤十字職員による緊急時対応の指導を行い参加をしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当施設は建物の構造上垂直避難をおこなう。年2回の避難訓練(昼間・夜間)を行っています。建物内の備蓄倉庫には地域の避難者のための備蓄も行っている。	年2回、避難誘導訓練を実施して災害時に備えている。訓練は地震・火災として昼間と夜間体制を想定して行っている。実施の際には消防署にも連絡して、非常対策責任職員の立ち合いで垂直避難と同じ階の広い安全な場所にヘルメットを着用して利用者を誘導している。避難に要した時間等記録して消防署に提出している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で言葉遣いを注意し合える環境作りを努めている。	日頃の関わりの中で職員の言葉遣いの語尾が強くなるような時には、その都度職員間で注意し合える関係が作られている。居室に入る時もプライバシーを考慮して声を掛けてから入るようにしている。また、利用者の気持ちを理解して、否定しないで自己決定しやすい言葉かけをするよう心がけている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名：

グループホームめだかの学校湯村

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話であったり、行動などを通じて信頼し合える環境を作り些細なことでも思い等を話せる環境を作り努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の体調面などを考慮して本人の希望に添える対応に心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、外出時には本人希望の服を選んで頂いている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下肢筋力の衰えもあるので椅子に座って出来るテーブル拭きや食器洗い後の拭き取りなどをさせていただく。	併設している特別養護老人ホームの管理栄養士が献立を作っている。調理されて届けられているが、ご飯は事業所で炊いている。利用者の好みや苦手なものを事前に伝えてあるので、メニューによっては代替食になっている。誕生日等特別食は利用者の食べたい物を聞き事業所で調理し、利用者も出来ることを一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成するメニューで栄養バランスが取れている。食事摂取量表、水分摂取表をかっつようしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアを行っている。介助者には出来ないところに対応している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用してパターンを見極めている。時間がずれているときなどは声掛けをトイレ誘導を促している。	排泄チェック表を使用して利用者毎の排泄パターンを把握し、トイレの外での見守りや介助等、利用者一人ひとりに応じた対応をしている。リハビリパンツを使用していた利用者の状況を見ながら布パンツとパットの使用に変更したり、日中と夜間のパットの大きさを替えたりと一人ひとりについて常に見直して支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師と相談して便秘薬の服用。牛乳・食物繊維が多い食品等を摂取していただく。食事前にラジオ体操、口腔体操を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週2回の入浴ではあるが、その時の体調を考慮して入浴を決めている。	併設している特別養護老人ホームと事業所の風呂を使い、一人週2回を基本として利用者の希望で入浴している。日頃から併設の風呂を使用している入浴を主とし、女性、男性の入浴日が決まっているが、事業所ではいつでも入浴することができる。また、重度化した場合でも、併設の風呂には機械浴があり入浴が可能である。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名：

グループホームめだかの学校湯村

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の夜間状況を把握し睡眠時間が少ない時には昼間休んでいただいている。居室内の温度調整を行い眠りやすい環境を作りをしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を活用している。体調面での変化には看護師と連絡を取りながら対応している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、たたみ、テーブル拭き等能力に応じていただいている。テレビでスポーツ中継や歌番組を見たり塗り絵等行う。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時などは、散歩に出かけて四季の季節を感じて頂く。花が咲くころには昼食を外食にしながら丸一日外出レクレーションに出かけている。秋には紅葉狩りに出かけている。	天気の良い日には、事業所周辺を散歩して近くのお店の人からも声を掛けられている。食べたい物の希望があれば夕食をして戸外に出掛ける機会を作っている。季節を感じる事ができる紅葉見学や季節の花を見に行っている。車酔いも考慮してあまりくねった道が続くような場所を避けて外出を支援している。また、家族等にも連絡して参加を呼び掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いの管理をしているが、必要時にはお金を渡して支払を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年齢の若い世代は携帯電話で家族との連絡を取っている。用事がある時には職員が仲介をする。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃を行っている。冬場には便座ヒーターを使用したり、トイレトイレットペーパーがうまく取れない方には初めからその人ように巻きペーパーをよういしておく。フロア内では温度管理をし明るさ調整もおこなう。	3階が事業所になっている。2階には特別養護老人ホーム、同じ階には短期入所生活介護施設が併設され共用している部分もある。日中利用者が過ごしているフロアは、対面式キッチンとテーブル、イス、テレビ、ソファが置かれ職員と一緒に会話したり、歌を聞いたりしながら家庭的な雰囲気の中で過ごしている。壁には利用者が園児と一緒に作った貼り絵等が飾られている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人がテレビを見たい時には自由に見ていただき、本を読みたい時には静かな環境作りを努めている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居時に本人とご家族様でレイアウトをして頂いています。タンスや縫いぐるみご家族様との写真なども飾り付けてあります。又、ご自分の作品を飾っています。	1ユニットの居室9室は、全室フロアマットでベット、エアコン、カーテン、照明器具が備えてある。タンス、イス、テレビ、洋服掛け、写真等馴染みの物を持ち込み、使いやすい配置してそれぞれの利用者が安心して居心地よく過ごせる部屋作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく障害物を無くしたり、手すりを利用しトイレ誘導時には自分のちからで行動出来る様に努めている。			